

10月に開催するスポーツ大会のお知らせ

岡市体育協会事務局 (スポーツ振興課内 ☎②0425)

名称	開催日 開会時間	会場	備考
第50回市民体育祭 第20回市民柔道大会	8日(月・祝) 午前9時	市民体育館	【対象】 市内に在住、通勤・通学する人 【部門】 団体戦(小学生、中学生、高校・大学・一般)、個人戦(小学校低学年、小学校中学年、小学校高学年、中学校1年と中学校女子、中学校2・3年生、高校一般1級以下と女子、有段者) 【参加費】 スポーツ少年団:1団体1,500円 高校・大学・一般:1人につき300円 【申し込み】 9/19(水)までに高梁柔道会事務局・高梁市栄町1947 金澤茂さん(☎②2109)へ
第30回市オープン 卓球大会	14日(日) 午前8時30分	市民体育館	【対象】 参加制限なし 【部門】 団体戦(男子、女子)、個人(一般男子、一般女子、シニア男子、シニア女子) 【参加費】 団体1,000円、個人500円(中学生・高校生300円) 【申し込み】 10/6(土)までに〒716-0011高梁市本町45 武南俊明さん(FAX②2243)へ
第23回市陸上選手権 大会	20日(土) 午前9時	神原スポーツ公園	【対象】 市内に在住、通勤・通学する人、クラブチーム 【部門】 詳しくは各公民館に備え付けの用紙をご覧ください 【参加費】 500円 【申し込み】 10/5(金)午後5時までに市体育協会事務局へ ※第2回「晴れの国岡山」駅伝競走大会の出場選考記録会となります。中長距離走の記録が選考資料となります。
第50回市民体育祭 市民健康づくり ソフトボール大会	21日(日) 午前8時30分	高梁運動公園	【対象】 大学生以上で構成されたチーム 【参加費】 1チーム3,000円 【申し込み】 10/17(水)までに市体育協会事務局へ
第50回市民体育祭 市民バドミントン 大会	21日(日) 午前9時	市民体育館	【対象】 市内に在住、通勤・通学する人 【部門】 個人戦(複は1部~4部までで男女の組み合わせ自由) ※詳細は市体育協会事務局まで 【参加費】 個人戦大人1人1種目1,000円(高校生以下500円) 【申し込み】 10/17(水)までに市体育協会事務局へ
第50回市民体育祭 市民硬式テニス大会	21日(日) 午前9時	神原スポーツ公園テニス場	【対象】 県テニス協会Bクラスの人 【部門】 男子ダブルス、女子ダブルス 【参加費】 1ペア3,000円 【申し込み】 10/17(水)までに市体育協会事務局へ 【問い合わせ】 高梁硬式テニスクラブ事務局・竹浪史郎さん(☎090-1330-9939)

地名をめぐって

八十四 石火矢町

「石火矢町」は、平成十一年、広報たかはし十二月号の「地名さんぽ」で取り上げましたが、その後、史料で明らかになった部分もありましたので、再びこのシリーズで「石火矢町」を紹介しま

す。「石火矢町」は、城下町時代に



石火矢町の「武家屋敷通り」

できた古い町筋で、御根小屋を起点として南へ広がる小堀氏時代にできた商人の町、本町、新町、そして、その後武家町として池田氏が取り立てた片原町や「石火矢町」がその東側に並行して走る「丁」の文字を町名に付けて区分してしました。

現在、「石火矢町」は、ふるさと村に指定されていて、高梁の町では、唯一の観光地区になっています。昭和時代まで、この町は、朱塗りの長屋門や土塀が続き、書院造りの母屋や庭を持つ武家屋敷らしい家が残っていました。今では足軽頭(戦鬨集団の先手組の頭)だった折井家(二六〇石)と近習役(藩主のそばで奉仕する役)や番頭役(交代で勤務する番役の長)などを勤めていた埴原家(二六〇石)の住宅のみが昔の姿を今に伝えているのです。折井家住宅も江戸時代の質素な武家屋敷の特徴を留めています。特に埴原家は武家屋敷としては、大変珍しい京都の公家風や寺院建築の要素を取り入れた数寄屋様式で、ぜいたくな造りの武家屋敷で市の重要

文化財に指定されています。

埴原邸は、江戸時代中期から後期にかけてつくられた武士の住宅です。文化二年(一八〇五)に編さんされた「松山御家中諸書書」によると、明和五年(一七六八)、市右衛門の五男の与兵衛が加賀の国(石川県)、前田藩より養子に來たとあり、その後、文化二年(一八〇五)には、又右衛門という人が、殿様に御目見得したことが記され、その後、文政九年(二八二六)には、惣(与)兵衛の子、慎二郎(後・頼母)が御目付役・近習役となり、番頭役になっています。「昔夢一班」でも惣兵衛と慎二郎の名が見えています。明和五年頃には、松山藩四代勝政の母は、この埴原家から出ているのです。埴原邸は武家屋敷らしくない建築で、正面玄関に二間の式台、水引き虹棟の上のかえる股には、加賀前田家と同じ梅鉢の家紋、そして、江戸時代中期以降の建築で入母屋造り、棧瓦葺き平入りで、縄破風のついた向拝をつけ、箕甲屋根は寺院を思わせます。また、切妻破風には三ツ花懸魚を取り付け、豪華で一二帖敷きの座敷は、書院造りで板天井に本床造り、そして、禅宗風の花頭窓を付け、柱はすべて



埴原邸の玄関

面皮にしている京都の家を思わせる数寄屋風建築なのです。その上、隣りの部屋との境の壁には下地窓(ぬりさし窓)を付け、茶室建築を思わせるぜいたくな武家屋敷で見どころがあります。

「石火矢」という地名は、安土桃山時代によく出てくる南蛮渡来の大筒の鉄砲のことで、火繩銃に「石火矢」というカートリッジ式の子砲を差し込んで発射したといわれます。松山城下時代のこの町には、鉄砲を扱う鉄砲組などの足軽隊がいたことが考えられるのです。鉄砲の種類の名を丁名にした歴史地名の一つなのです。

(文・松前俊洋さん)